

国内災害ボランティア活動報告

人文・文化学群比較文化学類 2年 駒野樹

この度、私は、台風 19 号の被災地である宮城県伊具郡丸森町にて 11 月 24 日(日)の 1 日間災害ボランティア活動に参加しました。以下にボランティア活動の内容や今回の活動を通じて考えたことを記しますので、これをもって活動報告とさせていただきます。

○活動内容 2019 年 11 月 24 日(日)

活動時間は 10:45 頃から 15:00 頃までの約 4 時間。活動場所は新川の堤防付近に位置する木造一軒家。作業内容は家屋に流入した泥土を土嚢袋に詰め、運び出すものだった。

新川は阿武隈川水系に属する一級河川であり、今回の台風で大きな氾濫を起こした。河川堤防は氾濫によって崩れている部分もあり、また河川沿いの地域には泥土が大量に堆積していた。作業を行った家屋は一階部分が浸水したようで、床板をほぼ全て剥がさなければならない状況だった。床下には泥土が山積し、屋外に運び出すだけでも大変な作業に思われる。

今回は、屋外に既に運び出された大量の泥土を土嚢袋に詰め込む作業から始まった。泥土は、乾燥状態では一辺 30cm の立方体に収まるような塊になっていることが多く、見た目以上にかなりの重量がある。さらに悪いことに雨などで水分を含むと重量が増え、同時にべちょべちょとして土嚢袋に詰め込みづらくなってしまふ。粘着性もあるため、スコップ等の道具にすぐにへばりついてしまう。当日も午後から雨が降り、泥土の詰め込み作業は難航した。大人 8 人で約 4 時間作業を行っても一日一件がやっとなり、その住宅に関しても作業が完了した訳ではない。

担当した住宅には高齢男性が暮らしており、復旧作業はご家族が中心となって行っている。平日は仕事等で忙しく、土日などの休日にしかまともに作業をすることができない。今後もボランティア派遣を継続して依頼するそうだが、完全復旧にはまだまだ時間がかかりそうである。

○まとめ

今回の台風に関しては、私自身または私が住んでいる地域には直接的な被害は及んでいない。また、ニュース番組や新聞等で全国各地の被災地の様子が報道されていたが、あまり実感が湧かずにいた。しかしある日のニュースで「被災地でボランティアが不足している」という報道を目にし、被災地の方々の苦しむ声を耳にしたとき、「このまま他人事で終えてはいけない」という思いが芽生えた。大学生という比較的時間や体力にゆとりがある身だからこそ、今こそ行動を起こそうと思い至り、ボランティア活動に従事することを決意した。

丸森町を実際に訪問すると、地域への被害は想像以上に甚大で、台風直撃から一ヶ月以上

が経過した現在でもいまだに災害ゴミや泥土が山積していた。数多くある家屋からそれらすべてを搬出するだけでも、大変な労力と時間が必要だろう。もっと多くの人手や重機などがあればより早期の復旧も可能だろうが、ボランティアの人数や重機等の数は現状不足している。今回担当した住宅のご家族も行政に重機の派遣を依頼しているそうだが、日程や重機の数の関係でいまだに派遣されていないそうだ。実際に活動する中で、災害支援への需要に対して支援の供給が圧倒的に不足していることを痛感した。今後も地域を越えた支援体制が求められる。

ボランティア活動は想像以上に体力を要するもので、かなりの重量がある土嚢袋を数時間にわたって運搬し続けるのは、正直大変だった。活動の最中には天候が悪化し、降りしきる雨の中作業を行う場面もあった。辛いと感じることもあったが、被災者の方々はこの辛さに耐え続けながら今も復旧に向けて励んでいることを考えると、ボランティアである自分こそ頑張らなければならないという気持ちになった。お昼頃には、ボランティアで来ているケータリングカーの方からラーメンを作っていただいた。寒い中食べるラーメンは身体も心も温めてくれ、お陰様でその後の作業も張り切って行うことができた。なかなか復旧が進まない厳しい状況の中多くの人々が協力して支え合う姿を目にし、とても温かな心持ちになった。

今回ボランティア活動に参加したことで、報道だけでは分からない被災地の厳しい現状を実感することができ、今後も様々なかたちで支援していきたいと思った。また、被災地の復旧のために非常に多くの人々が関わり支え合っていることが分かり、そういった人々の温かな繋がりに感動を覚えた。しかしながら、被災地ではより一層の支援を必要としており、それは当該の地域の人々や行政だけでは賄いきれない。早期復旧のためにはやはりボランティアの力が必要であり、今後も多くの人々がボランティア活動に従事することを願う。加えて、多くの人々がボランティア活動等に参加できるような環境を整備することを、諸機関に望む。

○活動の様子(写真)



写真上：丸森町災害ボランティアセンター



写真上：新川の様子



写真上：災害ボランティアセンター付近に集積された災害ゴミ



写真上：泥土を土嚢袋に詰め込む作業



写真上：泥土を詰め込んだ土嚢袋



写真上：お昼の休憩時に頂戴したラーメン